

## 夏場に多い皮膚疾患について

夏は気温や湿度が高くなったり、肌の露出が増えることで皮膚のトラブルが多くなります。紫外線、汗に含まれる成分での炎症、虫刺され等さまざまな原因があります。今回は、その中でも夏に起きやすい代表的な疾患についてお話させていただきます。



### 水虫

原因は白癬菌というカビの一種です。靴を長時間履いたり、激しいスポーツをしたり、白癬菌にとって好ましい高温多湿という環境が整った時に、菌が増殖をし始め、症状がでてきます。症状は赤くジュクジュクになって皮がむけたり、白くふやけてぶよぶよになったりします。爪の場合は、爪が白っぽくなるのが特徴です。

### 予防法

清潔を心がける。洗ったあとは水分をしっかりとふき取り、しっかりと乾燥させる。バスマット、タオル、スリッパなどを共用しない。  
通気性のよい靴下、靴を履く。靴を履く時間をできるだけ短くする。

### あせも

大量の発汗によって生じる皮疹のことです。原因は、高温多湿の下で運動をしたり、ギブス、包帯等で通気性が悪くなった時に、汗が通る管が詰まることで、汗が正常に分泌されず、皮下にたまることです。症状は強い痒み、水泡、赤みを持った小さな湿疹等であることがあります。通常は数日で自然におさまります。症状がひどい場合はかゆみ止め、塗り薬を使うこともあります。



### 予防法

肌を清潔に保つこと、通気性に注意する事、汗はしっかりとふき取る事、しっかりとお風呂に入る事です。

### とびひ

細菌による皮膚の感染症です。あせも・虫刺され・湿疹などをひっかいたり、転んでできた傷に二次感染を起してとびひになります。症状は痛痒さを伴う湿疹、水泡ができ、体に広がってしまうこともあります。治療は抗生剤の内服、外用剤を使用します。



### 予防法

きちんとお風呂に入り、清潔を保つ。お子さんの場合は、鼻に指をいれないよう注意する事。爪を短くする、乾燥がある部位には保湿剤を使いましょう。

予防法は共通する部分が多いですね。注意して過ごしましょう。